



～ふる里の水と土に感謝して～

第16回 大師の里・彦左衛門の あじさいまつり 開催

水土里ネット立梅用水、多気町、多気町勢和地域資源保全・活用協議会が協賛



水土里ネットみえのブース

あじさいがあちらこちらで咲く多気郡多気町丹生の大師の里周辺で6月10日(日)午前9時から「第16回大師の里・彦左衛門のあじさいまつり」が開かれ、梅雨の合間の晴天とあって、会場一帯は12,000人ばかりの人出でにぎわった。

今回も昨年に引き続き、「美(うま)し国おこし・三重」の一環として位置付けられ、過去最多となる70団体が参画した。

オープニングセレモニーに続いて、あじさい姫の紹介、よさこいソーランフェスティバル、恒例の田んぼの綱引きなどが広い会場のあちらこちらで行われ、とりわけ途中手掘りのノミ跡が残るトンネルを抜ける立梅用水路の「ポート下り」は待ち時間が出るほどの大盛況であった。



綱引きで奮闘する我が水土里ネットみえ

クイズにチャレンジする家族連れ

水土里ネットみえも会場入口付近にブースを設け、毎年恒例となった「あじさいの小径クイズラリー」を実施し、お年寄りから子どもまで800人がクイズラリーに参加した。参加者たちは、立梅用水路沿いの「アジサイの小径」の散策を楽しみながら、水土里ネットに関するクイズにチャレンジし、水土里ネットの地域での役割について理解を深めた。ゴールでは参加者にもれなく花の種子がプレゼントされ、笑顔で好みの種子を選んでいた。

また、「田んぼの綱引き大会」では優秀な成績を残したチームに大会をさらに意欲を掻き立てようと、昨年に引き続き本会より「水土里ネットみえ会長賞」を設け、栄誉を称えた。

試合では町内外の老若男女ばかりでなく、海外からのチームも参加し、全身泥だらけになりながら熱戦を繰り広げ、周辺の観客も大いに盛り上がっていた。我が水土里ネットみえも「米を持って帰るぞ!!」との強い意気込みも空しく1回戦で敗退した。

しかし、選手たちは来年への期待を込め大いに氣勢を上げていた。結果、優勝チーム「金太郎」、準優勝チーム「多気町消防団第7分団」、3位チーム「ギニュー特選隊」に栄冠が輝き、主催者より「彦左衛門のうまい米」、水土里ネットみえの中山専務より「水土里ネットみえ会長賞」がそれぞれ授与された。

他にも立梅用水路でのアマゴ釣り、うなぎつかみ、田んぼのコンサートなどいろいろな催し物や多くの団体が出店した特徴ある店々が軒を連ね、大にぎわいの1日であった。

上野英三郎農学博士とハチの像が、聖地久居に!



上野英三郎農学博士の像 (上野家保存)

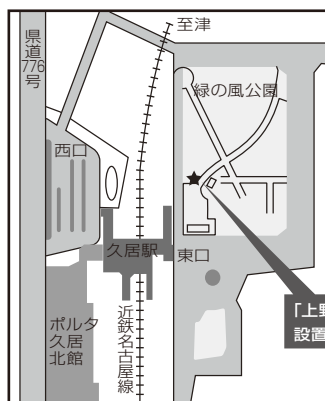
忠犬ハチ公の主人である上野英三郎農学博士が三重県津市久居の生まれであり、博士が幼少の頃よく遊ばれた巽ヶ丘を望む田圃の鎮守の柱に博士の記念碑があります。平成22年1月に、薄汚れ判読困難な記念碑を「上野博士とハチの銅像を建てる会」において調査したところ、全国初の博士の「農学博士上野英三郎篆額」の文字が浮かび上がりました。このように当地はまさしく博士の聖地と言えます。

しかし、郷里三重県や津市では、博士について殆どの方に知られておらず、ましてや博士の行跡が今日の農業土木の支えとなり、日本の農業の原動力となっていることは知られていません。

現在、博士とハチの銅像を近鉄久居駅東口の緑の風公園

内の一角に建てるべく準備中で、本年10月20日には除幕式を盛大に開催します。

聖地と称される三重久居が全国に羽ばたき、博士が国中に蒔いた農業土木の種子が、日本全国に豊かな実りをもたらしていくことが会一同の願いです。



上野博士とハチの銅像イメージ図

「上野博士とハチの銅像」設置予定場所